

平成29年度 第2回 日進市地域包括ケア検討会議 議事録

- 1 日 時 平成29年9月25日（月） 午後1時30分～同3時20分
- 2 場 所 日進市役所南庁舎 2階 第5会議室
- 3 出席者 五十里明（会長）、田貫浩之（副会長）、中井英貴、森道成、杉本良則、花井祥雄、高平和彦、鈴木絹子、加藤利秋、加藤知恵美、加藤理子、梅原寛子、大野香代子、村井良則
- 4 欠席者 山田幹雄、住田敦子
- 5 事務局 真野幸治（健康福祉部長）、小塚多佳子（健康福祉部参事）、伊東あゆみ（健康課長）、杉田武史（介護福祉課長）、川本賀津三（地域福祉課長）、柏木晶（地域福祉課主幹）、中根太地（地域福祉課地域支援係係長）、嶋崎祐子（地域福祉課福祉政策係係長）、天野典幸（地域福祉課地域支援係主査）
- 6 傍聴の可否 可
- 7 傍聴の有無 有・1名
- 8 報告事項
 - （1） 地域包括ケアシステム構築に向けた取り組みについて
 - （2） 第7期にっしん高齢者ゆめプランについて

事務局 定刻になりましたので、ただ今から、平成29年度第2回日進市地域包括ケア検討会議を開催します。それでは会議の開催に先立ちまして、五十里会長よりあいさつをお願いします。

会長 (あいさつ)

事務局 まず始めに、本日の配布資料について確認いたします。

(資料確認)

事務局 さて、本日の出席委員は12名でございます。会の開催につきましては、日進市地域ケア会議設置要綱第4条第5項の規定に基づき、委員総数の過半数に達していますので、会の成立をあらかじめ確認させていただきます。

それでは、以後の進行につきましては、五十里会長にお願いをいたします。

会長 ただ今、事務局から仰せつかりましたので議長を務めさせていただきます。議事がスムーズに進行しますよう、皆様のご協力をお願いいたします。まず、会議の公開についてですが、本日傍聴の申込みはありますか。

事務局 申込みが1名ございます。

会長 申込みがあるとのことですので、会議を公開とするのか、非公開とするのかをお諮りします。本会議におきまして、個人のプライバシー等が明らかになるような公開するのに適当でない事項の審議はありません。会議の公開についてご意見はございませんでしょうか。ご意見がないようであれば、採決をとらせていただきます。会議の公開について賛成の人は挙手をお願いします。

(挙手全員)

会長 それでは本日の会議につきましては、公開といたします。事務局は傍聴人を入場させてください。

(傍聴人案内・入場)

会長 それでは報告事項に入ります。本日は、市から

- ① 地域包括ケアシステム構築に向けた取り組みについて
 - ② 第7期にっしん高齢者ゆめプランについて の2案件の提出がありました。
- それでは、「議題①：地域包括ケアシステム構築に向けた取り組みについて」市

担当より説明をお願いします。

事務局 (資料1を説明)

会長 ただいま、事務局より説明がありましたが、ご意見・ご質問等がありましたらお願いします。

委員 資料No.4の要介護認定者数が減少している理由は何かありますか。

事務局 具体的な解析をした数字はございませんが、要介護認定の更新やサービス手続きに関して申請数が少なかったものと考えられます。

委員 総合事業移行前と移行後を比較して、訪問介護や通所介護の伸び率は抑えられていますか。

事務局 総合事業移行の際に、みなし事業は継続していますし、移行により全ての方のサービス形態が変わるわけではありません。基準緩和型事業への移行が可能な方につきましては、マネージメントを行いながら随時移行しています。今後はそれらの詳細な分析を行いたいと思います。

委員 次回以降の何れかの時点で、データを出していただきたいと思います。

会長 それぞれの事業の評価はPDCAサイクルをもって評価していただきたい。

委員 資料No.8 地域版介護予防教室についての展開について聞きたい。

事務局 ゆうゆう体操が市内1箇所を集約して実施しているため、今後は東部・中部・西部圏域の市内3箇所にて、事業者運営委託により、事業実施を考えている。

委員 中央福祉センターで行っている教室以外に、東部・西部を追加するのか。

事務局 後々、地域での実施についても、つどいの場も含めて考えていきたいが、まずは効果的な実施を目指して、この3箇所の実施から進めていきたい。

会長 資料No.5にある住民主体による支援の訪問型サービスBと通所型サービスBのそれぞれの進捗はいかがですか。

事務局 検討中ではございますが、その方針としましては、生活支援体制整備事業の中

で、訪問型サービスBの対象者は要支援の方となりますが、地域の中で生活支援の必要な方は、ひとり暮らし高齢者や後期高齢者など多くの方がお見えです。地域の中でサービスを作るのか、生活支援体制整備事業の中で作るのか、生活支援コーディネーターを含めてこれからの支援のあり方を考えていきます。

会長 これからの支援に向けて、大きな課題となりますので、よろしくお願いいたします。

委員 資料No.10の通所型サービスCの健口健食元気クラブは栄養・口腔機能改善に向けた必要な事業だと思いますが、参加者はこれから増えていくのか、また、この事業をどう評価をしていますか。

事務局 評価としては身体状況の評価として、体重・BMI等を、口腔機能に関する評価としましては、嚙む力・咀嚼力等の数値を、事前事後に測定し評価を行いますが、運動器機能向上事業と比較して、数値上の改善が出にくい状況ではあります。家庭に戻っての継続的にメニューを実施していけるよう、事業所とともに改善を図っていきます。参加者については基本、個別指導に近い形で実施するため、20名程度にて継続して行っていきます。

会長 この講座について、どう対象者を選定するのか、また、フォローアップをどう行うのかの議論がありました。受講者には申込時に、フォローアップも含めた承諾をいただき、評価をしっかりと行うために、必要な対象者に実施しているのかも含めて事業検討をしていただきたい。

委員 この事業は、後期にも実施しますか。

事務局 6ヶ月単位で、10月～3月の期間で要支援認定者に対して実施します。

会長 その他、よろしいでしょうか。
それでは続いて、「議題②：第7期にしん高齢者ゆめプランについて」市担当より説明をお願いします。

事務局 (資料2を説明)

会長 只今、市担当より説明がありましたが、ご意見・ご質問等がありましたらお願いします。

委員 全国的にも日進市は若い世代の方が多都市だといわれていますが、この様な

都市の特徴を踏まえた計画づくりを考えていますか。

事務局 比較のお元気な高齢者が多く、人口減少がないと考えられますので、介護予防に力を入れた施策に重点を置いた計画になっています。また、高齢者が支援を受けるだけでなく、支援を行う側として取り込める計画になっています。

会長 国から計画の指針が出されていまして、基本的にはそれにしたがって計画を策定していくのですが、今のご指摘のように、日進として何を行っていくのかという観点から、今後ご意見いただきたいと思います。

委員 基本理念や基本方針にて整理するとは思いますが、日進市の重点目標は、どの項目で解りやすく記載されますか。

事務局 計画の構成として、数字のデータ提示、アンケート、そこから導かれる日進市の課題という流れでお示しします。

委員 基本的には第6期を踏襲する形で進められているかと思いますが、前期からの変更点として大きな特徴になる事は、何でしょうか。

事務局 今回の第7期と前期の第6期との違いですが、前期では地域包括ケアシステム構築に向けた方向性を示し、今期では具体的な施策を計画書の中に盛り込んでいきたいと考えています。現在の素案の中には記載されていませんが、アンケート結果を分析し、次回の検討会にてお示ししたい。介護保険料につきましては、まだ算定はしていません。

会長 資料②の40ページの図については、第7期に初めて掲載するものですか。

事務局 おっしゃるとおりです。

委員 53ページの地域における支え合いを進めるとあるが、具体的に区や自治会に対して、行政として何を期待するのか具体的に見えにくい。理解啓発をすれば良いのか、こういう組織を作りなさいと指示があるのか、これから自治会としてどう取り組めばよいのか。

事務局 自治会・区に対して生活支援コーディネーターが出向き、地域課題を聞かせていただいています。把握した課題に基づき、地域の皆様と地域活動を進める中で協力をしていただきたい。

委員 　ただ、指示を待っていれば良いのか、こちらからお願いしないと動かないのかを知りたい。

事務局 　生活支援コーディネーターが地域に出向きまして、地域の皆様と共に動くことになりますので、コーディネーターから勉強会や協議体についてお話させていただき、ご協力をお願いさせていただくことになります。

委員 　徘徊する人を見守る仕組みを構築する中で、老人クラブ会員の7千人の目を使えば、かなり効果的に出来ると思ひ、役員会の中でもお話をしました。みんなで見守りを行うため、ある程度知識を持ってもらう必要もあるとのことなので、是非、講演会などを開催して欲しい。私達も民生委員と「あの人、最近気になるね」と話すことがあるが、気になる人を見つけたら情報発信していくことが必要だとも言っている。負担にならないよう、やっていきたいと考えている。

会長 　地域の組織と如何に情報を、市が連携をし、常に相談をし合いながら進めるのが重要だといえます。

委員 　具体的な事例があれば知りたい。地域では逆に実態が掴めない。当事者も自分たちで抱えてしまって、情報を外に出したがない。民生委員も情報が出せず、周りの共感が得づらい。静かに見守るしかない。事件でもあれば、パトロール隊を組もうかとか考えやすいが、どんなことから始めれば良いのか判らない。

事務局 　生活支援体制整備事業に関することになるかと思いますが、優先課題として、認知症の方の徘徊に対する地域見守り初動体制などは、昨年の地域座談会でもお話をさせていただいています。民生委員や老人クラブに向けて各組織単位で理解促進に関するお願いをしていましたが、地域の中で散らばっているその人たちを、どうつなげるのが課題として捕らえています。生活支援コーディネーターや社会福祉協議会と共に私達も入りまして、地域に向けて課題を投げかけさせていただき、いろんな方と課題を共有し、つなげていく協議体を築き上げていきたいと考えています。

会長 　地域課題を福祉関係の中で一番把握しているのが地域包括支援センターだと思います。地域包括支援センターが中心となって、民生委員や自治会、老人クラブの方たちと一緒に、個別ケースの検討をしていくことも必要だと考えられます。

委員 　認知症の徘徊で困っている方も含めて、地域で困っている方の個別相談を地域包括支援センターで対応しています。介護保険事業の中だけの小さな枠の中の支

援だけでなく、地域も含め連携をどのように行っていくのかを考えていく必要があるといった現状です。コーディネーターが地域関係者・組織をつないでいただき、個々のケースの中では個人情報もあって、全ての方には情報を流していないのですが、関係者や主治医、医療の分野と連携し、課題を把握し、一緒に支援方針を定めながら、ご本人とご家族が幸せに暮らせるように支援をしています。まだまだ皆さんの見えるところにまで支援が足りないのですが、皆さんのご協力を得ながら行っていきたいと思います。

委員 南ヶ丘では9月から「地域なんでも相談会」を社協の地域たすけあい相談員やコーディネーターにご協力いただき実施しています。毎月1回開催していくのですが、第1回目は相談がなかった。今後も、南ヶ丘福祉まちづくり協議会という連合体の中で課題をつなげていきたい。

会長 ひとり暮らしの高齢者の方はいろんな課題を持っているので、地域包括支援センターから周知していただくのが良いだろうと思います。

委員 竹の山や新しいまちに自分の親を連れてきても、近所付き合いがないので溶け込めないし、免許も取り上げられて動けなくなってしまうことがある。新しいまちやマンションは今までのまちと構成が違うので、そこを配慮した施策が必要。

会長 日進市の特徴でもあるので、恐らく一律の施策では難しいですね。

委員 歯科医師としても、地域を下支えする受け皿として意識し準備していきたい。

委員 自治会は老人になると脱会される方も多い。高齢だからこそ地域の支え合い画必要なのにどう対応すればよいのか。

会長 今の介護保険の方向性として、地域の自発的なボランティアに支えてもらわないと回らないと言われている。では、自発的なボランティアをどう育てるのか、全国的な問題でもあるし、様々な機関と話し合いながら、市の課題として考えていく必要もある。

委員 長久手市はM J M（まちは自分で守る）会議を開催して、空き巣被害を防ぐため、あいさつが盛んなまちは空き巣が少ないことから、あいさつ運動を始められた。年齢や職種、組織を超えて、参加者をかき混ぜることが大事だと聞いた。多くの人を巻き込んで関わらせられるかが大事で、かき混ぜ役を誰がやるかを検討していく必要があると思います。

委員 計画は検討途中とのことですが、高齢者の足、移動手段についてはアンケートから課題として挙げられていますか。

事務局 高齢者のニーズ調査の中で、移動に関する不安といったご意見もいただいています。現時点では移動支援については触れていないのですが、総合事業の中で検討してまいります。

会長 それでは、以上をもちまして、本日の会議を終了いたします。

(午後2時58分 閉会)